

(様式3)

自己評価結果票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>理念として、「豊かな自然の中で、地域の人々の温もりに触れる懐かしい生活を送ります。」をあげ、地域行事への参加を行っている。また、地域の協力や参加を頂いている。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念の共有は出来ている。管理者より、現状の評価を定期的に指示されているが、実践者としての、活動・工夫については項目内容により差がある。</p>	<p>各項目の具体的な活動・工夫において検討、実践の場面づくりが必要。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>ご家族への浸透として、月に一度、お便りの送付、請求書書式内に理念の記載を実施している。地域への浸透として、二ヶ月に一回、地域サービス運営会議を実施。年に二回避難訓練のお知らせの際、近隣にお願いとお知らせを記載している。施設内の玄関に理念の掲示をしている。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>入居者の方の散歩時や、地域行事の参加、買物、理髪店の利用等で、地域の方と顔なじみの関係を築いている。地域の方より、野菜のおすそ分け、ボランティアで、施設周辺の草取りをして頂いている。幼稚園の方より、茶摘みの参加を頂いている。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>隣保会に加入し盆踊り、秋祭り等の地域行事に参加している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>地域サービス運営推進会議を拠点とした情報収集や交流を実施に努めている。窓口を設置しているが積極的な活動には至っていない。</p>	<p>夏祭りや秋祭り、どんど焼き等、行事への参加しか出来ておらず、積極的な活動を行なっていくための仕組みから作っていく。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>評価の好評及び各職員への連絡を実施している。指摘事項については、早急に検討、改善を実施している。</p>	
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議の委員より、第三者から見た指摘を頂いている。また、現状における検討課題について、ご意見を頂いている。わかりやすい様に会議資料の工夫をしている。</p>	<p>介護職員や、地域における多方面の方々に会議へ参加頂く。</p>
9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>地域包括ケア会議の参加の実施。 地域の研修会の参加の実施。</p>	
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>管理者より、情報提供や相談時において説明義務を果せる準備あり。</p>	
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>現状において虐待の報告はないが、虐待の定義範囲を十分に理解し、検討される事は少ない。目に見える拘束はないがスピーチロックがある。</p>	<p>委員を設置し、虐待の定義の作成（マニュアル化）現状の見直しを実施する。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	2ユニット間の職員が行き来をし、顔なじみの関係者を多く作り、急な対応に備えている。	
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	どの職員も何らかの研修を受けやすいよう、研修内容の掲示、各職員に合う研修の紹介を管理者より行っている。経験者、資格取得者により勤務をしながら職員間で実践的に指導している。研修などの参加実績において個人差があり、これを補う為、職員会議の際に研修報告を受け入れている。	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	市の運営している会議や、研修先で意見交換、研修生の受け入れなどを行っている。近隣施設と協力施設としての契約を行っている。	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	定期的に行っている職員会議での意見交換や、職員内での親睦会を実施している。個別に相談が必要な場合には、管理者が相談を受ける。	
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	研修や資格取得の為に情報公開及び参加への日程づくりに協力している。個々の努力や実績に対し、管理者は人事考課を導入している。Off-jtにおけるアドバイスを個々にいれ、向上心に繋げている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>随時、相談内容に対し説明を行い、初期のアセスメントをもとに、課題分析・ニーズの具現化に繋げている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>随時、相談内容に対し説明を行い、必要に応じて見学などして頂き、相談に応える努力をしている。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>随時、相談内容に対し説明を行い、初期のアセスメントをもとに、課題分析・ニーズの具現化に繋げている。また、他のサービスの利用が発生時(必要時・希望時)は、他機関との調節をしている。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用施設と在宅を行き来する期間を設けている。入居者の方の負担を考慮した対応をご家族と相談の上、実施している。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>その人らしさの尊重と張り合いの役割を大切とした理念をもとに炊事、洗濯、掃除、特技など日常において発揮していただく場面づくりに努めている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	<p>利用者を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている</p>	<p>その人らしさを追求する上で、第一の情報提供者であり、墓参り等の外出や帰省でご協力頂ける実践している。その必要性和効果の大切さは職員間において熟知しており、関係づくりに努めている。</p>	
29	<p>利用者と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの利用者と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>情報公開に努め、ご連絡・ご面会いただけない家族にはこちらからお電話やお便りを送付させて頂き、入居者の方とご家族の橋渡しを行っている。</p>	
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>会話の中で、地域ならではの話題を取り入れ、回想法を大切にしている。環境づくりにおいては馴染みのある私物や、家具を搬入頂けるようご家族の協力を得ている。入居者の方の希望があればお手紙電話などのお手伝いをさせて頂いている。</p>	
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>家事や外出などを通して、入居者同士で関わりが出来る場面づくりに努めている。</p>	
32	<p>関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>定期的な季節の挨拶を行なっている。現在、野菜の頂き物など交流が続いている。</p>	<p>退居のほとんどが死亡によるもので訪問実績がない。家族との関係を断ち切らない取り組みとして、今後お墓参りや訪問し、故人との思い出話などを行なっていく。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>センター方式や個別のサービス計画書を作成、更新しその人らしさの暮らしが続けられるよう支援している。困難な事例の場合、ご家族の協力を得たり、ニーズの置き換えを入居者のご理解のもと実施している。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>ご利用前の施設との引継ぎやご家族から情報提供を頂いている。何気ない会話や言動の中でご本人から得た情報は、記録に残している。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>個別のサービス計画書内にてその方の価値観やリズム、出来る事、介助が必要になる事柄を挙げている。これをもとに、職員間の情報共有に努め、定期的に検討、更新している。</p>	
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>初期アセスメントや生活日誌などをもとに個別サービス計画書を立案し、職員会議にて情報の共有をしている。ご家族にもご理解、ご協力いただいている。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>身体などの変化における対応において、申し送りの際に職員間のケアの統一を促している。新たな計画が必要と判断される際、可能な限り再計画を立案している。その際、ご家族や必要関係者の連絡が必要な場合には、説明と同意を頂いている。</p>	<p>状態の変化を認めた際、変化に応じた統一したケアは実践しているが、計画書の作成が遅れる場合があり、迅速な計画書の作成が必要</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々のご様子を個別記録に残し、些細な情報を個別ノート等に記録している。その情報を職員間で共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>併設施設との情報交換や設備利用を行っている。また、併設施設のイベントへ入居者の方に参加して頂いている。</p>	
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>地域資源との協働</p> <p>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>地域サービス運営推進会議において、委員として参加を頂いている。また、消防署より防火指導を受けたり、ボランティアによる草取り、地域の文化展の見学、学校行事の協力などを実施している。</p>	
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>情報収集の一つとして他のケアマネジャーやサービス事業者との電話での意見交換を実施している。月に一度訪問歯科を利用している。</p>	
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>現在、成年後見制度利用の手続き紹介を行っており、地域包括支援センターと連絡を取りながら進めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>49 住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>現状として住み替え、在宅復帰の事例なし。入院時の対応として、定期的な面会と情報交換に努めている。</p>		<p>入院時のダメージについて、具体的なケアが形成されていない。検討が必要である。</p>
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>話し方や声の大きさ、速度などを個々に合わせ、話の内容によって場所を変え、プライバシーや人権に留意している。リビング等、人の行き来があるスペースにおいて、職員間の連絡が必要な際には実名を挙げず、他者にわからない様に配慮している。記録類は、指定場所に保管している。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>個々に合わせ感情の表現に繋がる声かけ、きっかけづくりに努めている。オープンクエッション・クローズクエッションを状況に合わせて行い、ご本人のご意見・主体性を大切にしている。身体状況や病状により、表出が困難な方には、表情やご家族のご意見やアセスメントをヒントに心境を伺う。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>職員会議等で意見交換・意識確認を行っているが、入居者さんの重度化が認められている現状として、業務内容の時間が固定されがちである。</p>		<p>日々その人らしい暮らしを再度職員全体で認識し、柔軟な対応が図れるように連携する。どの時間であってもその人らしい暮らしのお手伝いが出るよう工夫し努めていく。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>ご本人が希望される際など、近隣の理容・美容店をご利用して頂いている。外出時には化粧やご本人の好まれる服を着て頂いている。日常生活においても身だしなみや、おしゃれ(スカーフ・帽子・容姿)等に関してサポートを行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>利用者の嗜好の支援</p> <p>利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>お酒、タバコは、医師やご家族の制限がない限り自由としている。(喫煙所設置)おやつを自室に持っておられる方もある。コーヒーの希望をされる際、夜間を除き提供している。ただし、体調が優れない状態、過度の摂取がある際控えて頂く事をお伝えしている。</p>	
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>プライバシーや人権に留意し、介助にあたっている。個別の排泄状態、排泄表をチェックし、排泄スタイルの検討、投薬による排便調整を行っている。</p>	
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>毎日入浴できる状態であり、夜間においても入浴を行っている。一般家庭浴槽を使用し、マンツーマンの対応を行っている。入浴時間は、個々の主体性を大切にしている。</p>	
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>就寝時間も主体性を大切に行っている。但し、認知症の症状による不眠に繋がる不安、見当識がある際、時間や夜であることをわかりやすくお伝えすることがある。また、昼夜逆転や、生活に影響がある状態であれば、医師へ相談を行ない、投薬により睡眠の調整を行なっている。</p>	
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>生活の中で発揮できる役割を大切に支援にあたっているが、全ての方に、継続的にやりがいに繋がる場面づくりに繋がっていないのが現状。楽しみごと、気晴らしについても豊富といえるほどの方法・場面づくりが探せていないのが現状である。</p>	<p>成功例の蓄積が少なく、今後もあらゆることに挑戦していく。生活歴の情報収集と、ADL・IADLの情報を整理し、それをヒントに場面づくりに繋げていく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金の管理が出来る出来ないに着目せず、ご希望がある際、所持して頂いている。但し、所在の確認、紛失防止の為、定期的にさりげなく確認を行っている。可能な方は、外出時実費にて買物をして頂いている。</p>	
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>自主的な散歩はほとんど制限される事なく、自由に外出されている。職員も一緒に散歩に参加させて頂いたり、距離をおいて見守らせていただいている。買物や気分転換を目的とした外出やイベントごとは、定期的に場面づくりを行なっている。しかし、その参加数において、偏りが発生している。</p>	<p>偏りが発生してしまうことを無くすのではなく、少しでも戸外に出られるよう、日々の健康管理と外出内容の工夫に努める。</p>
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>マンツーマンによる外出は、偏りがあり、身体上及び職員配置による要因で困難な状況が発生している。ご家族との外出においても、ご家族が近くにいないという要因により、偏りがある。</p>	<p>月に一度や年に数回、外出への機会を作る。また、入居者ご本人も意欲的に参加いただけるよう、心身ともに健康であるよう努める。</p>
63	<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>規制することなく支援しており、携帯電話を所持されている方もある。</p>	
64	<p>家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>	<p>来所者の方が気兼ねされないよう、事前連絡・面会簿の記入、名札の着用等、手続きが必要ないよう最小限に抑えている。</p>	
(4) 安心と安全を支える支援			
65	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>マニュアル作成済。人権擁護や身体拘束がないように、会議や現場にて管理者より、常に意識付けを行なっている。目に見える拘束はないがスピーチロックがある。</p>	<p>身体拘束をしないケアについてのマニュアルを熟知し、心理的な負担があることを職員間において認識しながら、日々の業務にあたる。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>夜間以外鍵を閉めることはない。居室においても外から鍵を閉める行為は行なっていない。また、その重要性和心理的な負担があることを職員間において認識している。</p>	
67	<p>利用者の安全確認</p> <p>利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	<p>個々の表現や思いから行動を予見し、所在の確認、所在環境の危険性を確認しながら安全に配慮している。居室や独りになる場面において、定期的にさりげなくご様子を伺っている。</p>	
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	<p>異食の行動がある方がおられ、他人同居の方と共有される場所や居室においては、物品を職員側で保管させて頂くことがある。</p>	
69	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	<p>個別の事故防止案を作成しており、定期的にヒヤリ・ハットの報告を集計しながら更新している。行方不明の防止、搜索時や火災時のマニュアルを作成し、定期的に更新を行なっている。</p>	
70	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	<p>急変時の対応マニュアルは作成できているが、職員全員に徹底できていない。</p>	<p>職員全員に浸透するように、職員会議などで講習会をしていく。</p>
71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>避難訓練時、近隣の方にお知らせをして、どのような音響があるのかを知って頂いている。火災による非難の対応は、マニュアル化されているが、水害・地震に関するマニュアルはない。また、長期の避難ができる場所が検討されていない。</p>	<p>協力施設との連携の中で、災害時の対策を盛り込む。長期の避難場所と避難方法など、地域の方と検討が必要である。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>	<p>情報公開を第一に、面会時や電話、お便りをもとに、随時連絡を行なっている。ご家族の方も介護の良きキーマンとして参加頂いている。</p>	
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異常の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>毎日のバイタルサインの確認(個別の正常時の平均値を出している)、食事量・排泄回数確認、入浴時に身体の観察を行なっている。また、異常の発見時は、速やかに報告をし合っており、状況によって対応している。緊急時は救急車の要請を行っており、緊急性が不透明な場合は医師に連絡をとり、指示を頂いている。</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬の説明書は個別記録に保管しているが、常に目にしやすいような状態ではない。各職員が意識を持って理解していく事が必要。</p>	<p>薬に変更があった場合どの職員も把握できるよう連絡などを確実に行なう。投薬内容を表に一覧にするなど、分かりやすい対応をとる。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>食事メニューの記録に必要な栄養素の一覧を記載している。その中で、繊維質の摂りやすい食材を紹介しており、購入段階から意識している。便秘がちな方には、運動場面の提供や医師への相談を行なっている。</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>義歯の洗浄や歯磨きの促し等、就寝前を中心に行なっている。その際、必要に応じて介助させて頂いている。訪問歯科による口腔ケア指導も受けている。</p>	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事メニューの記録に必要な栄養素の一覧を記載している。食材の栄養素を理解し、バランスのとれた食事の提供に努めている。食事量・水分量は毎食後確認している。摂取量の少ない方に関しては、好まれるものや時間を変えてこまめに提供している。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症に関するマニュアルがあり、それをもとに予防に関することを徹底している。消毒・衛生管理・早期発見を意識している。発生後の手順やマニュアルにおいては、即座に対応ができるよう各ユニットに感染症対策委員会の委員があり、管理者をはじめとする者が指示している。		
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	日々の管理として、チェック表があり、消毒し確認している。冷蔵庫内の消毒・賞味期限の確認、保存等食材管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の周りには、季節に合わせた飾り付けや、プランター・植木を置き、景観の整備を行なっている。建物の造りも近隣の住居に溶け込めるよう中学校をリフォームし使用している。		
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	太陽の光が入りやすい造りとなっており、防音・寒さ対策として、ほとんどが二重窓となっている。中庭には季節感のある花や植物を植えており、共有スペースには季節にあった飾りつけを行なっている。日々清掃を行い、心地よい空間づくりを行なったり、消臭として炭を設置している。		
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りでゆっくりできるよう人通りの少ないところにソファを置き、利用して頂いている。リビングの食席は、個々の思いに任せており、心境に合わせて職員がサポートしている。又、リビングに隣接した和室には、冬場はコタツ、夏場は机を置き、語らいの場としてよく利用して頂いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		<p>認知症対応における環境の変化の影響を押さえた上で、職員会議にて再度、自立について検討し、必要最小限のバリアフリーの工夫について考える。</p>
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

理念に掲げているが、利用者の皆様のその人らしさを尊重し、その人らしい暮らしの提供、在宅時の生活スタイルを出来るだけ継続する事を心がけている。自由な面会や宿泊など、ご家族様との交流も、気軽に足を運んで頂ける雰囲気作りに力を注いでおり、実際、開設時から定期的に宿泊されているご家族様もある。又、豊かな自然に囲まれた環境の中で、ゆったりとした時間を過ごして頂けるよう努めている。